

ヘルスケアプロバイダーの皆さん： 「バイスタンダー」としてCPRスキルを活かすには

本トレーニングプログラムでスキルを習得することにより、ヘルスケアプロバイダーとしての職務中に反応のない患者に対処する準備ができます。反応がなく、正常に呼吸しておらず、脈拍がない患者に対して行う従来のCPRを習得します。従来のCPRとは、胸骨圧迫と人工呼吸を組み合わせたもので、胸骨圧迫は適切な深さと速さで行い、圧迫と圧迫の間に胸壁が完全にもとに戻るようにし、胸骨圧迫の中断は最小限にとどめます。

もちろん、これと同じスキルは、ヘルスケアプロバイダーとしての職務についていないときに、公共の場や私的な場で心停止を起こした傷病者に遭遇した場合にも実施できます。つまり、「院外で」心停止を起こした傷病者を救うためにも、「バイスタンダー」としてスキルを用いることが必要とされる場合もあります。職務において患者をケアするように、院外で心停止を起こした傷病者にも、中断を最小限とした、質の高い胸骨圧迫を行うことに注意を払うべきです。

院外で卒倒した成人を目撃した場合には、あなたのスキルで以下のことを行います。

従来のCPR—胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせを30:2の比で行う

または

ハンズオンリーCPR—胸骨圧迫のみ行う

いずれの方法も、院外での成人の心停止に対して、最初の数分間は有効であることが確認されています。中断を最小限とした、質の高い胸骨圧迫を行える自信のある方法で行うべきです。

卒倒した成人に対するハンズオンリーCPR

ハンズオンリーCPRは、院外で突然の心停止を目撃された成人傷病者にバイスタンダーが行う適切な対処法として、AHAが広く市民に推奨しています。ですからこのような現場で、他の人がハンズオンリーCPR、つまり人工呼吸を行わないCPRを行っていても驚かないでください。その人たちは、おそらく以下に示す2つの簡単な手順を学んでいるはずです。

119番に通報する



胸部中央を強く、速く押す



ハンズオンリーCPRは以下の人には推奨されません

- 反応のない乳児や小児
- 以下に示す傷病者
 - 溺水
 - 外傷
 - 気道閉塞
 - 急性呼吸器疾患
 - 薬物過量などによる無呼吸